

側頭葉てんかんの発作誘発因子

弘前大学神経精神科 和田 一丸

てんかん発作は、いつ出現するかわからないことが特徴の一つですが、個々の発作について検討すると、発作を起こしやすい特有な条件や誘因が認められる場合があります。いわゆるてんかん発作の誘発因子としては、以下に示す様々なものが知られています。

1) 睡眠不足は、臨床的に非常に多く経験される発作誘発因子です。ただし睡眠時間は単に長時間とればよいというわけではなく、個々人の生活に合った規則正しい睡眠をとることが重要です。徹夜に近い状態と過度の睡眠とを繰り返すといった不規則な生活態度は避けるべきです。

2) 身体的疲労（過労）も発作を誘発する場合があります。たとえば仕事が多忙で残業が続く場合など、疲労が蓄積していると発作が出現する場合があります。また、このような過労は睡眠不足を伴うことが多く、疲労をためないこと、十分な睡眠をとることは、発作を避けるための最も基本的な注意事項であると言えます。

3) 強い情緒的刺激や精神的ストレスもしばしば発作を誘発します。これらの心理的因子は、い

ずれてんかん類型に対しても発作を誘発する可能性があります。とくに難治側頭葉てんかんの誘発因子として重要であるとした報告も認められます。

4) 女性の場合には、月経周期が発作を誘発する場合があります。とくに月経前から月経中にかけて発作が生じやすいことが知られており、これは月経てんかんと呼ばれています。発作の発現機序としては、ホルモンの変化とそれに伴う水分貯留、電解質代謝の変化などが考えられています。また、女性患者が妊娠すると発作が悪化する場合があります。その場合、全般発作より側頭葉てんかんを含む部分発作の方が妊娠の影響を強く受けます。また、薬物の胎児への催奇形性に対する不安から、患者自身の判断で勝手に薬物を減量ないしは中止してしまうことがあり、それが妊娠中の発作の増加に結びつく場合も少なくないようです。女性の患者さんに対しては妊娠前からの啓蒙と積極的な教育・指導が必要となります。

5) また、てんかんの患者さんにとって過度の飲

酒は好ましくありません。実際、飲酒後に発作が生じる例がしばしば観察されており、これらの例では、怠業や夜遅くまで飲酒している睡眠不足などが合併していることがあります。ただし、てんかん患者の通常の飲酒を全面的に禁止する必要はなく、適量の飲酒であれば精神的ストレス発散の意味からも有効である場合があります。なお、アルコール症患者者において、アルコール離脱時のみ発作が誘発されるものは、アルコール離脱発作と呼ばれ、てんかん発作とは区別する必要があります。

6) 更に、熱性けいれんにみられるように、乳幼児では発熱が発作を誘発することが知られていますが、成人のてんかん患者においても、気道感染症などによる発熱時、発作が出現することがあります。とくに高熱が生じた際には、発作の出現に十分な注意を払う必要があります。

以上、てんかんにおける発作誘発因子について述べてきましたが、とくに難治な発作を有する患者さんにとっては、誘因を避けるための生活上の節制はより重要な意味をもつと考えられます。側頭葉てんかんに特異的な誘発因子の存在は認められていませんが、側頭葉てんかんは成人の難治てんかんの代表であり、側頭葉てんかんの患者は発作誘発因子に対してより慎重になる必要があると考えます。